

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ぼっぼ・おりーぶ		
○保護者評価実施期間	R7年 1月14日	～	R7年 1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	R7年 1月14日	～	R7年 1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、全職員が参加している。</li> <li>所内研修の実施や、所外研修に職員が積極的に参加することで資質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者・本人の要望、アセスメント→②児発管の個別支援計画のたたき台→③カンファレンス→④支援計画策定→⑤実際の支援→⑥記録→①に戻る…のサイクルを、常時ユニット職員+aで行っている。</li> <li>職員朝礼、ユニット会議、等で業務内容の進捗や問題点を共有できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パート職員も参加をするようにしているが、時間的に難しい時もあるので、文書を回覧することで周知している。今後は会議の開催の仕方を工夫するなどして、全員が参加できるようにしていきたい。</li> <li>外部講師を呼んでの職員研修など、さらに職員の資質向上を図りたい。また、新入社員の研修制度にも力を入れていきたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な支援の提供</li> <li>活動の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所らしさを生かした支援プログラムを立案し、保護者や関係機関にお知らせしている。</li> <li>利用児のアセスメントを、観察、記録、保護者との面談、学校、医療からの情報提供などからしっかりと行い、その子の「今必要な支援」を見極めて支援計画を立てている。</li> <li>ユニット内で意見交換を活発に行い、活動計画を立てている。</li> <li>活動担当、おやつ担当などが移り変わる子どもたちの興味や意欲を把握し、その時々合った活動になるよう工夫している。</li> <li>利用児の個人記録を、活動内容や対人・コミュニケーションなどの観点別にエピソードと共に積み上げていき、長いスパンでの支援に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き職員間の意見交換や「対話」を大切にし、利用児や保護者に寄り添った支援ができるように努力したい。</li> <li>個人記録の形式を見直し、これまでの記録を見返しやすいうようにしていき、日々の支援や支援者会議、移行支援などに活用できるようにしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関や保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍校や主治医、相談員、エスコ等と密に連携を取り、利用児の困り感やニーズを的確に得られるようにしている。</li> <li>事業所に保護者に迎えに来ていただくことで、支援を行っているその場で子どもの活動の様子やその日の様子をタイムリーに伝えることができている。</li> <li>毎回の報告書のやり取りにより、家庭での様子、事業所での様子を細やかに伝え合っている。</li> <li>必要に応じて、サポートノート等を利用し、学校⇄医療⇄事業所の情報共有を密にし、支援に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き関係機関と密につながり、支援に生かせるよう努力していく。</li> <li>広報誌を関係機関にも配布し、ぼっぼの療育について知ってもらおうと共に、利用児がどんな活動をしているのかを知ってもらい、支援の輪が良好なものになるようにしていきたい。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備※バリアフリー化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所が2階にあるので、車いす等の方の利用が難しい。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策等の訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練等の回数が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系列保育園の看護師を招いて、嘔吐時の処理の仕方などの研修を開催したい。</li> </ul>
3			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ぼっぼ・びーず		
○保護者評価実施期間	R7年 1月14日		～ R7年 1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	R7年 1月14日		～ R7年 1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、全職員が参加している。</li> <li>所内研修の実施や、所外研修に職員が積極的に参加することで資質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者・本人の要望、アセスメント→②児発管の個別支援計画のたたき台→③カンファレンス→④支援計画策定→⑤実際の支援→⑥記録→①に戻る…のサイクルを、常時ユニット職員+aで行っている。</li> <li>職員朝礼、ユニット会議、等で業務内容の進捗や問題点を共有できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パート職員も参加をしようとしているが、時間的に難しい時もあるので、文書を回覧することで周知している。今後は会議の開催の仕方を工夫するなどして、全員が参加できるようにしていきたい。</li> <li>外部講師を呼んでの職員研修など、さらに職員の資質向上を図りたい。また、新入社員の研修制度にも力を入れていきたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な支援の提供</li> <li>活動の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所らしさを生かした支援プログラムを立案し、保護者や関係機関にお知らせしている。</li> <li>利用児のアセスメントを、観察、記録、保護者との面談、学校、医療からの情報提供などからしっかりと行い、その子の「今必要な支援」を見極めて支援計画を立てている。</li> <li>ユニット内で意見交換を活発に行い、活動計画を立てている。</li> <li>活動担当、おやつ担当などが移り変わる子どもたちの興味や意欲を把握し、その時々合った活動になるよう工夫している。</li> <li>利用児の個人記録を、活動内容や対人・コミュニケーションなどの観点別にエピソードと共に積み上げていき、長いスパンでの支援に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き職員間の意見交換や「対話」を大切にし、利用児や保護者に寄り添った支援ができるように努力したい。</li> <li>個人記録の形式を見直し、これまでの記録を見返しやすいようにしていき、日々の支援や支援者会議、移行支援などに活用できるようにしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関や保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍校や主治医、相談員、エスコ等と密に連携を取り、利用児の困り感やニーズを的確に得られるようにしている。</li> <li>事業所に保護者に迎えに来ていただくことで、支援を行っているその場で子どもの活動の様子やその日の様子をタイムリーに伝えることができている。</li> <li>毎回の報告書のやり取りにより、家庭での様子、事業所での様子を細やかに伝え合っている。</li> <li>必要に応じて、サポートノート等を利用し、学校⇔医療⇔事業所の情報共有を密にし、支援に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き関係機関と密につながり、支援に生かせるよう努力していく。</li> <li>広報誌を関係機関にも配布し、ぼっぼの療育について知ってもらおうと共に、利用児がどんな活動をしているのかを知ってもらい、支援の輪が良好なものになるようにしていきたい。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、足洗い場が、隣接する小規模保育園と兼用のものなので、使い勝手が悪い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専用の洗い場を設置していきたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策等の訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練等の回数が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系列保育園の看護師を招いて、嘔吐時の処理の仕方などの研修を開催したい。</li> </ul>
3			

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ぼっぼ・のあ		
○保護者評価実施期間	R7年 1月14日		~ R7年 1月24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	R7年 1月14日		~ R7年 1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月14日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善を進めるためのPDCAサイクルに、全職員が参加している。</li> <li>所内研修の実施や、所外研修に職員が積極的に参加することで資質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者・本人の要望、アセスメント→②児発管の個別支援計画のたたき台→③カンファレンス→④支援計画策定→⑤実際の支援→⑥記録→①に戻る…のサイクルを、常時ユニット職員+aで行っている。</li> <li>職員朝礼、ユニット会議、等で業務内容の進捗や問題点を共有できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パート職員も参加をするようにしているが、時間的に難しい時もあるので、文書を回覧することで周知している。今後は会議の開催の仕方を工夫するなどして、全員が参加できるようにしていきたい。</li> <li>外部講師を呼んでの職員研修など、さらに職員の資質向上を図りたい。また、新入社員の研修制度にも力を入れていきたい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>適切な支援の提供</li> <li>活動の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所らしさを生かした支援プログラムを立案し、保護者や関係機関にお知らせしている。</li> <li>利用児のアセスメントを、観察、記録、保護者との面談、学校、医療からの情報提供などからしっかりと行い、その子の「今必要な支援」を見極めて支援計画を立てている。</li> <li>ユニット内で意見交換を活発に行い、活動計画を立てている。</li> <li>活動担当、おやつ担当などが移り変わる子どもたちの興味や意欲を把握し、その時々合った活動になるよう工夫している。</li> <li>利用児の個人記録を、活動内容や対人・コミュニケーションなどの観点別にエピソードと共に積み上げていき、長いスパンでの支援に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き職員間の意見交換や「対話」を大切にし、利用児や保護者に寄り添った支援ができるように努力したい。</li> <li>個人記録の形式を見直し、これまでの記録を見返しやすいようにしていき、日々の支援や支援者会議、移行支援などに活用できるようにしていく。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関や保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍校や主治医、相談員、エスコ等と密に連携を取り、利用児の困り感やニーズを的確に得られるようにしている。</li> <li>事業所に保護者に迎えに来ていただくことで、支援を行っているその場で子どもの活動の様子やその日の様子をタイムリーに伝えることができている。</li> <li>毎回の報告書のやり取りにより、家庭での様子、事業所での様子を細やかに伝え合っている。</li> <li>必要に応じて、サポートノート等を利用し、学校⇄医療⇄事業所の情報共有を密にし、支援に生かしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き関係機関と密につながり、支援に生かせるよう努力していく。</li> <li>広報誌を関係機関にも配布し、ぼっぼの療育について知ってもらおうと共に、利用児がどんな活動をしているのかを知ってもらい、支援の輪が良好なものになるようにしていきたい。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業所が2階建てで、民家なので車いす等の方の利用が難しい。</li> <li>屋内でしっかり身体を動かすスペースがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系列保育園の園庭や近隣の公園などでからだを動かして遊んでいる。引き続き同様に機会を設けていく。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策等の訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練等の回数が少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>系列保育園の看護師を招いて、嘔吐時の処理の仕方などの研修を開催したい。</li> </ul>
3			